

歴史は未来の羅針盤

温故知新

今回は、近江日野商人館からお届けします。毎年、三学期になると、町内の小学生が「昔の道具」の勉強に近江日野商人館を訪れてくれます。商人館は、また「日野町歴史民俗資料館」という別名もあり、昔の生活道具なども展示しています。ぜひとも、ご利用を。

ひな人形と日野商人

毎年、正月を迎えると、新聞の折り込み広告にひな人形の広告が目立つようになり、春の訪れが近いことを感じさせてくれます。

「町おこし」を目的としたひな祭りは全国各地で行われていますが、日野町でも、「日野ひなまつり紀行」が、今年で三年目を迎えています。日野のひな祭りの特徴は、各戸が手持ちの人形を「さじき窓」やガラス戸越しに自由に飾り、町並み全体で祭を盛り上げるところにあると評価されています。

また、飾られる人形に、江戸時代や明治時代などの古い時代の人形が多いのも、多くの日野商人を生み出した町ならではの特徵で、普通の町では、これほど多くの古い人形を見ることはできません。

日野商人館でも、日野ひなまつ



▲古い時代のひな人形〔写真①〕

り紀行に協賛し、多くの方の協力を得て、写真①のように、江戸時代から戦前までの古い人形を中心に展示しています。

商人館で飾っているひな人形のなかで、特に珍しいひな人形を紹介しましょう。

写真②のひな人形は、日野の旧家に伝えられているものです。一見したところ、ひな人形には見え

ないのですが、「鴻巣人形」と呼ばれている非常に珍しい江戸時代のひな人形です。

この人形は、江戸時代以来、埼玉県鴻巣市地方で作られてきた地方色豊かなひな人形で、鴻巣市はひな人形の発祥地とも言われており、今もなお、ひな人形作りが盛んな町です。

鴻巣人形は、割り箸状の木ぎれを芯にして、紙や布を材料とした人形を立て、その前面に人形や花などを配置して物語の一場面を表したひな人形です。

また、長野県に古くから伝わる「押し絵雛」なども、日野の旧家に所蔵されています。

このような関東・中部地方生まれのひな人形が、どうして日野の町にあるのでしょうか。

詳しいことは分かりませんが、江戸時代の日野商人は、「お店持

ち」や「お店勤め」として関東地方を中心に、多くの人々が活動していました。父や夫、兄の帰国を待つ日野の家族の元に持ち帰った土産の一つに、これらのひな人形があつたのではないのでしょうか。

日野の町は、地方に位置するにもかかわらず、江戸時代以来、全国各地の多くの文化を積極的に取り入れてきた珍しい町です。関東・中部地方から運ばれたひな人形もその一つで、全国各地の文化を身に付けて故郷に戻った先人の進取性を読み取ることができます。



▲珍しい鴻巣人形〔写真②〕